

# P11



## 複数の教員が関わる

グローブの観測活動は、単発ではなく、継続的に観測しデータを積み重ねることが重要です。しかし、教員の異動の問題があり、それまでグローブ活動を担当していた教員が異動になると観測活動の継続が困難になる事例が見受けられます。また、新しい教員が業務の負担を懸念し活動を躊躇するケースもあるため、複数の教員が担当する仕組みを構築することをお勧めします。複数の教員が関わることは、活動の継続や負担軽減の効果だけでなく、生徒にとって「多様な先生とのつながり」や「新しい視点の獲得、視野の広がり」といった意味でも効果が期待できます。

## 生徒を中心に活動を展開する

生徒自身が観測・研究したいテーマや疑問・関心を持っているテーマにあわせて活動を行うことで、意欲や興味を引き出し、活動を盛り上げていくことができます。また、生徒が中心となって活動に取り組む、「生徒が先生を巻き込む形」になると、他の先生方の協力も得やすく、学内の体制づくりという点でも良い効果があります。

## 既存の枠組みや活動とドッキングさせる

グローブ活動は単独の活動として行うだけでなく、授業や探求活動、課題研究などに関連させたり、部活動や委員会など他の枠組みや活動と連携させることで、「活動に広がりが出る」、「効率的に活動を進めることができる」、「興味のない生徒も巻き込める」といったメリットがあります。

実際に、グローブスクールでは、化学部やマリンバイオ部、技術家庭科部、環境委員会など様々な活動主体でグローブ活動が展開されています。また、水生生物の研究を行っている生徒にも、研究の中でグローブの水質調査も実施できるようサポートしたり、環境活動を行っている生徒にグローブを紹介し研究発表を実施するなど、既存の活動をうまく利用することで、生徒の興味を広げるとともにグローブ活動の幅を広げることができます。